

8月22日～27日、SGH LABO2の生徒がフィンランドのヘルシンキで研修を行っています。ジェンダー施策の先進国であるフィンランドで、政府施設、保健施設、企業、保育所、教育機関への訪問調査や聞き取り調査を行い、「日本人女性のジェンダーギャップ」について研究を深めます。また現地の高校生との交流を通して、お互いの歴史や文化について学習します。

## ★ 8月22日（月）ヘルシンキに到着しました



### ★ 8/22（月） 成田空港からヘルシンキへ

生徒11名と教員3名が成田空港を出発しました。成田では、離陸の時間に台風による暴風雨が重なり、1時間ほど飛行機の中で待つことになりましたが、何とか無事に出発することができました。



[夜の8時でもこの明るさ！]

到着したヘルシンキは紅葉が始まるなど秋の気配がしており、風も少し肌寒く感じられます。それでもヘルシンキの陽はまだまだ長く、夜の8時でも明るく、まるで昼間のようなようです。

明日から各施設への訪問や視察がいよいよ始まります。どんな学びや出会いがあるのかとても楽しみに思われ心が躍ります。

## ★ ジェンダー施策先進国 フィンランドでのフィールドワークが始まりました！



### ★ 8/23（火）午前 ネウボラ（Munkkiniemen neuvola）訪問

母子支援施設ネウボラは妊娠期から子育て期の一貫した継続的な支援が行われている保健施設です。世界中から見学依頼が絶えず、日本でも各自治体はその支援方法を参考にしています。

私たちのような高校生の訪問は珍しく、貴重なお話と施設の様子を見学させていただきました。



ヘルシンキ西部地区統括責任者でシニア看護師の Limmi さんから、ネウボラの包括的、重層的な支援についてのお話がありました。

写真撮影はできませんでしたが、施設内で実際に個別に保健師さんから支援を受ける両親や子どもの様子を見学し、眼に焼き付けました。

日本のように役所が設定した検診に、保護者が一斉に赴き、初対面の医師や保健師に検診してもらう形態とは大きく異なっており、恵まれた環境での支援に驚嘆するとともに、福祉国家の一端に触れることができました。

8/23 (火) 午後

### TANE (男女共同参画審議会) 訪問

この機関は政府や政党と民間が一体となった組織で、ジェンダーに関わる国の政策を総合的に立案・推進しています。

フィンランドの男女平等の歴史は長い歴史があります。

お話をしてくださった審議会書記長の Tanja さんの姿に、自国の女性を支援する充実した環境に誇りを持っておられることが感じられ、強く印象に残りました。

\* \* \* \* \*

私たちもフィールドワークを通して研究内容を更に深め、ジェンダーに関する新しい提言ができるようにせねばならないと決意を新たにしました。

\* \* \* \* \*



夕食は郷土料理「sea horse」。

北欧ならではの鮭のスープや鯉の唐揚げをいただくことができました。

レストランにあった日本語のメニューは、今日一日フィンランド語を通訳してくださった川村さんが担当しておられます。

ヘルシンキを訪問する日本人にも貢献する形で働く川村さんの姿にふれることにより、グローバルに活躍する日本人女性を身近に感じることができました。

